



中野 正剛議員

Q 希望する小中学生に防犯ブザーを貸与してはどうか

A 希望者に対し防犯ブザーを貸与すること等について研究していく



その他の質問

- ・マイナンバーカードを利用した救急業務について
- ・带状疱疹ワクチン定期接種について

Q 彦根市では小中学生への防犯ブザーの貸与は行っていないのか。

A 本市では現在、小中学生に対して防犯ブザーの貸与は行っていない。昨年度までは企業から安全ホイッスルの贈呈があり、市内小学校1年生全児童に配布していたが、昨年10月に終了した。

Q 滋賀県内で防犯ブザーを貸与している市町はどれくらいあるのか。

A 19市町中12市町が小学校の新入生向けに防犯ブザーを貸与ではなく、配布している。

Q 彦根市でも希望する小中学生に防犯ブザーを貸与してはどうか。

A 各小学校では毎年新入生に対し、防犯絵本や防犯リーフレットを配布して複数で登下校することや不審者から身を守る行動について指導しているが、今後は、希望者に対し防犯ブザーを貸与すること等について研究していく。



▲防犯ブザー（イメージ）



小川 吉則議員

Q 4月の旭森学区正法寺町を中心とした空き巣等の犯罪件数は

A 4月27日から30日にかけて6軒の住宅が被害に遭った



その他の質問

- ・介護人材不足について

Q 彦根市の空き巣等の犯罪の件数は。

A 令和6年中に彦根市内で発生した「侵入盗」の件数は75件であった。

Q 4月の旭森学区正法寺町を中心とした空き巣等の犯罪件数と被害は。

A 4月27日から30日にかけて、正法寺町を中心とした半径2キロ圏内で、6軒の住宅が被害に遭ったと発表された。被害の詳細は、現在も捜査中であり、具体的な内容については警察より情報提供を受けていない。

Q 地域住民が注意すべきことは。

A 特に注意すべき点として、普段見慣れない車両や人物を見かけた場合、すぐに110番通報、もしくは最寄りの警察署への通報をお願いしたい。在宅中であっても、玄関や窓などの出入り口には確実に鍵をかけること、特に就寝時には必ず施錠することが基本となる。



▲旭森学区内の自治会を防犯パトロールする、彦根警察署長等と滋賀県警察のマスコット「けいたくん」



野村 博雄議員



安全・安心のため防犯灯の充実や通学路上の危険な空家への取組の推進は



防犯灯設置の推進や新たな条例等で危険な空家への対応も進めていく

Q 安全・安心のため防犯灯の充実が必要では。

A 防犯灯は犯罪を抑止する効果のある設備であり、LED防犯灯を設置される自治会等に対し補助金を交付し、犯罪が発生する恐れがあると思われる箇所については設置を推進していく。

Q 通学路上にある管理不全で危険な空家への取組の推進状況は。

A 状況の把握に努め危険性の有無によって所有者に対し是正指導を行う。また、今後の更なる取組が必要と認識しており、新たな空家の条例において応急的なものとして軽微な措置という規定を設け、特に通学路上の改善が見込めない管理不全な空家には、通行者が危険な空家に近づかないよう仮設的な対応も図っていく。



その他の質問

- ・より利用しやすい公共交通の整備推進について
- ・荒神山を中心とした観光促進について
- ・新市長の方針について



▲設置の推進が望まれる防犯灯



長崎 任男議員



建設候補地は西清崎地区との考えと理解してよいか



市長としては西清崎地区で検討したい

Q トンネルコンポストを中止した場合の建設候補地として、西清崎地区との対話に言及されていることから、市長として新ごみ処理施設の建設候補地は西清崎地区との考えと理解してよいか。

A 西清崎地区は建設候補地として、これまで住民の皆様の多大なご協力とご理解を得て、準備や検討が進められてきた地域である点は非常に大きなポイントであると考えている。市長としてはまず、西清崎地区で事業を進めることについて検討したいと考えている。

Q 西清崎地区は、新ごみ処理施設の候補地が二転三転する中で、振り回されてきた。今回もハシゴを外すということはしないと約束していただけるか。

A これまでの非礼をしっかりとお詫びを申し上げ、皆様の気持ちに寄り添いながら、今後の計画を進めていくべきと認識している。



その他の質問

- ・レイラック滋賀FCのJリーグ昇格時の経済効果は
- ・田島市長は今後どのようにレイラック滋賀FCに関わっていただけるのか



▲西清崎地区



八橋 龍二議員



彦根城は誰のための世界遺産登録を目指しているか



世界遺産は全人類のために保存し価値を享受すべき



その他の質問

- ・天守前までのバリアフリー整備の可能性は
- ・海外の整備事例の調査は

Q 彦根城のバリアフリー化ユニバーサルデザイン化に向けて、現在の進捗状況は。

A 彦根城のバリアフリー化は文化財保護との両立が課題であり、現在は麓エリアの段差解消や障がい者用トイレ整備等を段階的に進めている。天守までの整備は安全面や文化財への影響から慎重な検討が必要であり、今後は技術の進展や他自治体の事例を参考に対応策を検討していく。

Q 市民や障がいのある方、専門家を交えた検討体制は。

A 現時点では専門会議の設置予定はないが、彦根城保存活用総合検討委員会にて専門的見地から意見を伺いながら進める。今後は、障がいのある方や市民の皆さまのご意見も重要と認識し、必要に応じて意見をくみ上げる機会を設け多角的に検討を進める。



▲バリアフリー化を目指す彦根城



堀口 達也議員



新ごみ処理施設の方針転換の理由と、市への影響および現有施設の状況は



現有施設の大規模改修や外部搬出により、財政負担や市民への影響が懸念される



その他の質問

- ・ひこねしちよーCH閉鎖の影響と対策は
- ・ふるさと納税促進のための戦略的な発信への見解は
- ・彦根市の米問題の影響と対策は

Q 新ごみ処理施設の方針転換の理由と、市への影響および現有施設の状況は。

A トンネルコンポスト方式は、国の交付金の1/2への拡充が見込めず、フラフ^(※)の販売先が1社であり、全国的な採用実績も香川県三豊市の1例のため市長において中止と判断した。

現行の焼却場は供用開始から48年が経過し県内最古で老朽化が著しい。R4～6年度には、R11年度の新施設完成を見据え、その間の安定稼働に最低限必要な基幹設備の大規模改修をしたが、新施設の完成予定がR11から17年に延期となっており、未改修部分の大規模改修が必要となる可能性が高い。共通設備の改修には焼却停止と外部搬出による多額の費用が発生し財政負担が増えることや、収集車両の動線や市民の直接搬入にも支障があるため、今年度中に新たな長寿命化総合計画を策定し対応を検討する。

※フラフとは乾燥処理された紙や汚れたプラスチック、繊維くず等で、固形燃料の原料となるもののことです。



▲ごみ焼却場長寿命化改修工事の主な工事箇所